

大倉山講演会



実業家の社会貢献とその理念

月 日	演 題	講 師
平成30年 3月17日(土)	大倉山記念館創建のころざし —大倉邦彦の社会貢献活動—	当財団研究所長 平井 誠二
4月21日(土)	近代の漢学と社会貢献活動 —渋沢栄一と三島中洲の交流から—	二松學舎大學教授 町 泉寿郎
5月19日(土)	森村市左衛門 —陶磁器事業と社会貢献—	関東学院大学教授 四宮 正親
6月16日(土)	日本のロータリークラブ誕生と 米山梅吉の思想	新潟経営大学教授 堀 峰生

大倉精神文化研究所を創立した大倉邦彦は、紙問屋を経営する実業家でした。大倉は、自分は何のために生きているのか、何のためにお金を儲けるのか、儲けたお金をどのように使うべきかを真剣に考えました。そのたどり着いた答えが教育事業や精神文化事業でした。大倉は、これを天から与えられた自らの使命と考え、精神文化事業を通して、社会を良くしたいと考えました。

今日、海外企業からの影響で、企業のフィランソロピー(慈善活動、社会貢献活動)やメセナ(文化支援活動)などの必要性が叫ばれていますが、日本国内にも古くから神道、儒教、仏教等の教えから派生した社会貢献活動の考えがあり、江戸時代には石門心学に代表される町人道徳も形成されていました。

近代日本の実業家の中には、国内外の思想的背景を元に、様々な社会貢献活動を展開した人物が数多くあげられます。その中には、大倉のように企業経営と社会貢献活動を分けて考えた経営者と、企業経営そのものを社会貢献と考えた経営者がいました。

今回の大倉山講演会では、企業経営で成功しただけでなく、社会貢献活動においても活躍した実業家を取り上げ、それらの人々が、いかなる社会貢献を、どのような思想、理念に基づき実践したのかを学び、その上でそれらを学ぶことの今日的課題について考えることといたしました。

このテーマによる大倉山講演会は本年で3年目を迎え、いよいよ最終年度となります。

会 場：大倉山記念館ホール (東急東横線大倉山駅下車、徒歩7分)

時 間：午後2時～3時30分 (開場は午後1時40分から)

定 員：80名 (予約なし当日先着順) 聴講無料

問合せ：公益財団法人大倉精神文化研究所 横浜市港北区大倉山2-10-1 ☎045-834-6637

Eメール okuraseishinbunka@js6.so-net.ne.jp

ホームページ <http://www.okuraken.or.jp/>

主催：公益財団法人大倉精神文化研究所 共催：横浜市大倉山記念館指定管理者

7月7日(土) 公開講演会を愛知大学との共催で開催する予定です